

報徳園だより

〒514-0065 三重県津市河辺町 1317-1
TEL:059-228-1951 FAX:059-228-1952 <http://www.houtokuen.jp/>

題字 理事長 常磐井猷磨

コロナ禍における人のつながり

園長 千草篤磨

新しい年の始まりにあたり、ごあいさつを申し上げます。

さて、去年は世界的なコロナウイルスの感染拡大が勃発し、未だに終息の兆しが見えていません。ウイルスの感染そのものに対する不安に加え、感染者への誹謗中傷に対する不安も拡大し続けており、人と人とのつながりが分断される状況は誠に残念です。今は、私たちの心までもがコロナウイルスに冒されてしまわないよう、社会福祉従事者としての誇りと役割を再認識する時でもあります。

去年は、緊急事態宣言の発令などで面会ができなくなる時期がありました。また、デイサービスの利用者の中には利用を控える方もありました。感染を予防するために外部との接触を極力少なくすることは必要です。しかし、家族と



の面会ができなくなった入所者の中には、笑顔が消え、食事量が減り、不穏状態になる方もありました。デイサービス利用を控えた方の中には、身体機能の低下と同時に意欲の低下

が認められた方もありました。社会福祉に携わる者として、この時期を大変歯がゆい思いで過ごしました。

10月15日
付厚生労働省事務連絡
「社会福祉



施設等における感染拡大防止のための留意点について(その2)(一部改正)」で、面会については、「感染経路の遮断という観点」と「つながりや交流が心身の健康に与える影響という観点」から、「地域の発生状況等も踏まえ」て対応を検討することが提案されました。本園では、感染予防対策を十分にとりつつ、地域の感染状況を踏まえながら、厚生労働省のガイドラインに沿って、可能な限り家族や友人の方との面会交流の機会を作っています。また、従来以上にレクリエーションなど心の介護に力を入れていく方針です。コロナ禍の中だからこそ、人間の文化や福祉の質を高め、人間のつながりや優しさを深めていきたいものです。

入所者のみなさんの生活は、 心身の状況に応じて4つのゾーンに分かれています。

1丁目

1丁目は介護度の重い方が多く生活しています。そんな中、レクリエーションを行うと、一生懸命になってゲームを行う方がいる事に気付きました。他にも、みどりの広場に飾る物作りをしていると、そばに来て興味を持ち一緒に飾りを作りつつ楽しんでいます。筆を持つと何を書こうかと考えながら達筆な字を書いてくださり、介護度の重い利用者さんでも色々な事ができる事が分かりました。これからも利用者さんと一緒に色々な取り組みを行って、新たな「できる事」を見つけて共に楽しんでいきたいと思っています。



2丁目

「オリンピックイヤー」と華々しく始まった2020年。その賑わいも2か月程で、世間も2丁目も新型コロナの渦に巻き込まれました。そんな日々でも、2丁目で変わらないのは、利用者さんと職員の笑顔、そして笑い声です。職員との会話で笑顔になる人、大事にしている人形を見て笑顔になる人、ご家族の話をする笑顔になる人、大好きな歌を歌うと笑顔になる人、一人ひとり笑顔になるきっかけは違いますが、利用者の方々の個性を大切に、免疫力アップを目指し、今年も笑顔の絶えない2丁目にしていきたいと思っています。



3丁目

昨年はコロナで始まりコロナで終わった一年でした。押し寄せるコロナ感染症の波をかわしながら、職員も含め3丁目利用者皆さん元気に新年を迎える事が出来ました。コロナ感染症が終息しましたら利用者さんとやりたいことが山ほどあります。先ずは何と言っても春のお花見！報徳園の園庭に咲き誇る十数本の桜はそれはそれは見事です。家族さんにも満面の笑顔の利用者さんと一緒にお花見に是非参加して頂きたく、その日が早く来ることを願っております。

追記：自粛生活が長いので あのシンボル？三重の塔を何と五重の塔にこの度リニューアルしました。桜と合わせてご披露できることを心待ちにしております。



4丁目

日に日に寒さを増してきましたが、4丁目の皆さんはとても元気に過ごしていただいています。床暖房の効いた食堂は、陽当たりが良くとても暖かいです。歌をうたって過ごす方、おしゃべりを楽しむ方、様々な過ごし方があります。そんな中、去年も作成したお花紙で作る干支飾りを作成中です。皆さん手先がとても器用で、薄いお花紙を一枚一枚めくりお花を完成させます。今年は丑年、どんな干支飾りが出来るか楽しみです。コロナの影響もあり皆さんが寂しい思いをしないように、色々と考えていきたいと思っています。



デイサービスセンター報徳園（認知症対応型通所介護）

前回お伝えしましたデイサービスでのレクリエーションについてお話します。事前に決められているその日の担当者が、当日の利用者さんの人数や顔ぶれ、前日に行ったレク、季節によっては天気具合も考慮して計画します。天気が良く暖かい日などは園庭で行うこともあり、新鮮な空気の中で開放感を味わってもらえるよう工夫します。レクを進める時は内容やルールを理解してもらえるよう、声の大きさやトーン、滑舌には十分、気を付けます。歌やゲーム、脳トレ、ストレッチと利用さんの笑顔が広がるよう、これからも創意工夫していきます。



在宅介護支援センターの業務 🏠🏡🏢🏣🏤🏥🏦🏧🏨🏩🏪🏫🏬🏭🏮

最近物忘れがひどくなった、転倒を繰り返している、自宅に閉じこもりがちで意欲低下が著しい、退院が近いが自宅での生活を再開する事に不安を感じている、家族で介護しているが負担が大きい…等々、在宅介護に関する悩みはつきません。私たちはそのような悩みに寄り添い、一緒に解決策を考えさせてもらっています。常にご本人やご家族の気持ちに寄り添いながら、必要に応じてご本人の状態に合った介護サービスのご提案や介護事業所等との連絡調整を行ったり、介護保険に関する申請手続きの代行もさせていただいておりますので、在宅介護でお困りの際はお気軽にご相談ください。





入所者インタビュー

和田 裕さん (84才)

①入所前はどのような生活でしたか。

3人兄弟の末っ子で生まれ、父を早くに亡くしました。中学を出て、ペンキ屋さんなどで働きました。一緒に暮らしていた兄が他界し、私は報徳園にお世話になりました。

②入所後の生活はいかがでしたか。

園内の観音様に「病気をしないように、幸せになれるように」と手を合わせています。ご飯は美味しく、残さず食べています。職員さんはいい人ばかりで、大事にもらって幸せです。以前は将棋をする仲間がいて、将棋をしていました。80歳を超えて、運動をするわけにもいかず、今は静かに過ごさせてもらっています。病気もせず、行けるときには朝のお参りにも行き、報徳園に入って良かったと思います。



家族インタビュー

飯久保 美千子さん
(入所者 飯久保 俊夫さん 77才)

①入所前はどのような生活でしたか。

夫は教員を定年で辞めた後、体調を崩して入院しました。退院後は在宅で妻である私が介護をしてきましたが、骨折で車椅子の生活となり、2年前に報徳園に入ることとなりました。

②入所後の俊夫さんの様子や奥様の気持ちはいかがでしたか。

別々に暮らす生活スタイルが変わった時は、夫の状態がどうなっていくのか不安で、自分だけが孤立している様に感じていました。しかし、報徳園での生活を通して、夫の表情が明るくなり、体調も安定して穏やかになってきた姿を見て、私もありのままでもいいのだと思える様になりました。

③報徳園の環境や職員の印象はいかがですか？

一年を通して自然に触れる事ができ、職員の手作りの展示物も多く、暖かさを感じます。また、職員だけでなく、他の入所者の方からも声を掛けてもらえ、人のつながりの大切さを改めて感じさせられる思いです。



地域のみなさんへのインタビュー



河辺町自治会長 木平 喜廣さん

コロナ禍で、今年度の河辺地区盆踊りや敬老行事等が中止となりました。初めての事で、世間の声も気にしつつ、今後の行事を開催するかしないかの判断も難しく、様々なことを手探りでやっていくしかない状態です。河辺地区の子供の数は減ってきており、盆踊りへの参加者は少なくなっています。昔からの行事も大切にしながら、何か違う形での繋がりを持たないかと感じているところです。時代が変わり、人と人との繋がりが減っていく中で、コロナ禍ということが拍車をかけてしまわないよう、終息後に向けて、地域の方が報徳園に行ってみたい、関りを持ちたいと思ってもらえるようなアイデアを考えていければと思います。

医務室より



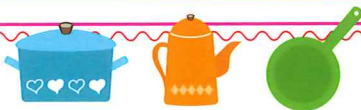
寒さと乾燥が気になる季節が近づいてきました。冬は「ノロウイルス」や「インフルエンザ」が猛威を振るう時期です。今年も新型コロナウイルスも流行しているので、自分自身だけではなく周囲の人へうつさないように、より一層気を引き締めて対策をしていきたいと思っています。園では、10月には入所の方、職員へのインフルエンザワクチンの予防接種、11月には感染症（ノロウイルス）に関する研修を各ゾーンで行いました。

新型コロナウイルスについて厚労省より感染リスクが高まる「5つの場面」として「①飲食を伴う懇親会等」「②大人数や長時間に及ぶ飲食」「③マスク無しでの会話」「④狭い空間での共同生活」「⑤居場所の切り替わり」をあげているよう、飛沫・接触感染によって拡大することが知られています。お気づきの方もいらっしゃると思いますが、ノロウイルス・インフルエンザウイルス・コロナウイルスは同じような感染経路です。掃除方法や注意点も同じなのです。

「加湿！手洗い！うがい！マスク着用！」を徹底しながら、今年度感染者ゼロを目指し、感染予防対策を行ってきたいと思っています。



給食業務より



「非常時の食事提供」

東日本大震災から9年目、日本中の防災意識が高まりました。今後30年間の南海トラフ地震の発生確率は80%です。近年では温暖化による異常気象で大型台風による大雨や停電の被害が後を絶ちません。

報徳園では災害時食事提供訓練を年に一度実施しています。テントの設置、井戸水の蛇口の準備等も職員が行います。熱源は電気、ガスは使用せず薪を使います。利用者の昼食は長期保存が可能なアルファ米、副食はレトルトでミキサー食まで対応できるキューピーのやさしい献立シリーズを使用しています。

薪に火をつける作業がなかなか難しく空気の通る隙間を作り、新聞紙などに種火をつけ、火が安定するまでうちわで仰ぐ作業に職員は苦戦、普段からガス、電気に依存して生活している事に改めて気がつきました。職員もアルファ米などの備蓄食を普段からあまり口にしない為、試食として昼食はアルファ米にレトルトカレーで食べました。今後も災害時食事提供訓練を継続して、突然の災害にも柔軟に対応できるよう日々努力していきたいと思っています。



職員研修会

「音楽療法」

今年度予定されていた職員研修のひとつ、音楽療法が10月23日より始まりました。講師は、高田短期大学の長谷川恭子先生です。新型コロナの影響により延長になっていましたが、第一回目の10月23日は4丁目の職員を中心に、入所者やデイ・ショート利用者の皆さんも一緒になって楽しみながら参加することができました。研修時間は1時間弱ですが、あっという間に時間が過ぎて行きました。

内容としては、まず、体温を上げるために血流アップ体操から始まります。声を出しながら腕を伸ばし、手を握ったり開いたりします。タマゴシェイカーというマラカスのような物も使います。スピードも徐々に早くなり声も大きくしていきます。体操で身体がほぐれたら「お座敷小唄」や「鐘の鳴る丘」など4曲を電子ピアノに合わせて元気に歌います。「紅葉」や「星影のワルツ」「いつでも夢を」は手拍子をせずゆっくりと歌います。ゆったりとリラックスして終了となります。



新任職員紹介 ~新人職員3名の自己紹介です~



藤岡 智子 (介護士)

9月からリネン室に勤務している藤岡です。福祉施設で働くのは初めてで、戸惑うこともありましたが、職員さんも利用者さんも温かく、たくさんの笑顔に囲まれ、毎日を過ごしています。日々の日常を少しでも気持ちよく過ごしていただけるよう、努めていきたいと思えます。宜しくお願いします。



駒田 壘 (介護士)

10月1日付に着任しました、駒田壘と申します。大学では教育学を専攻し、前職は営業職でした。介護の経験は浅いですが、日々上司や先輩方からご指導頂き勉強中です。利用者さんと接し感謝の言葉や表情を見る度、喜びを実感しております。これからも利用者さんやご家族さんの喜ぶ顔が見られるよう邁進していきますので、宜しくお願い致します。



森矢 純 (看護師)

私は今まで病院、有料老人ホームでの訪問看護、訪問入浴で働いてきました。その中で慢性期の看護や看取りに興味があり、報徳園で頑張りたいと思えました。社会人になって5年目であり、引っ越しの関係で点々としてきたので経験が豊富なわけではありません。その分人一倍勉強して早く自立し、気付きと対応をしっかりとできる看護師になりたいと思えます。皆さんにご迷惑をかけることがあると思えますが、よろしくお願ひします。



報恩講について

武田 英機師（真宗高田派慈相寺住職）

報徳園では毎年12月に報恩講を勤めます。理事長（高田本山前法主）の導師の下、高田派宗務総長にもおいで頂いて、入所者の方と職員とがそろってお参りをしています。

報恩講は仏教寺院で宗祖の恩徳を謝するために催される"法会"です。従って天台宗や真言宗も、どの宗派でも同じ目的の法会が開催されていて、天台宗では霜月会と呼ばれています。

では、報恩とはどういう意味なのでしょう。簡単に言えば「自分が受けた恩に報いる」ということです。「正法念処経」には恩に報いるのに容易で無い恩として母・父・如来・説法法師の四つをあげ、「舍利弗開経」は在家者は父母の恩、出家者は師僧の恩にまず報いるべきであると説いています。確かに子どもとして育てて貰った両親に対する「親の恩」

が尊いのはもちろんですが、親鸞聖人は「仏恩」と「師恩」を強調されました。「仏恩」とは、念仏一つでこの苦しみの世界から救って下さるといふ阿弥陀佛への恩、「師恩」とはお釈迦様の本意を末法の世の現在まで護り、伝えて下さった法然上人を始めとする七人の高僧の方々への恩であります。

親鸞聖人は正像末法和讃に、「如来大悲の恩徳は 身を粉にしても報ずべし 師主知識の恩徳も 骨を砕きても謝すべし」と和讃されています。このことで如何に仏恩と師恩に報いることが大切かを我々にお示し下さいました。

真宗では親鸞聖人の御命日が旧暦十一月二十八日であることから二十一日の午後から二十八日午前まで間を「御正忌」と呼び「七昼夜」にわたって一年で最大の法要が行われます。高田派と本願寺派は新暦に改めて一月九日から十六日までの七日間これを「お七夜さん」と親しんで呼び、お参りしています。

職員のリモート研修

新型コロナウイルスにより、人が集まる研修も影響を受けています。リモートでの研修が多くなり、報徳園でも何人かの職員がリモート研修を受けました。研修を受けた職員からは良かったという声も聞かれています。会場へ行く時間も節約でき、講師の方と1対1のような感覚でリラックスして研修を受けることができました。一方で、参加者同士が休憩時間に情報交換したり、他施設の職員と交流を深めたりすることができず、人との繋がりという点では物足りないという感想もありました。今後もこういった研修が増えてくると思いますが、職員の知識・技術の向上を図り、利用者さんの日々の生活に活かしていければと思います。



ギャラリー



「休息」(津市ヨットハーバー) 小川洋一さん

集会所(仏間)前の廊下の壁は絵画や写真のギャラリーとして、入所者や来園者の和みと癒しの空間となっています。月単位で10作品ほどを入れ替え展示しています。今回は小川洋一さんの絵画と中川治夫さんの写真を紹介します。



「晩秋」(五十鈴川) 中川治夫さん

表彰



長年報徳園に勤務し、その功績により今年度各種表彰を受けた職員を紹介します。

- ・厚生労働大臣表彰
田中 里香 (介護士：勤続 32 年)
- ・三重県社会福祉協議会会長表彰
小林 優子 (介護士：勤続 26 年)
- ・全国老人福祉施設協議会会長表彰
稲葉 仁志 (介護支援専門員：勤続 20 年)
大田 皓子 (介護士：勤続 20 年)
- ・全国老人福祉施設協議会感謝状
和田 尚美 (介護士：勤続 15 年)
後呂 知美 (事務員：勤続 15 年)
内藤 康史 (介護士：勤続 15 年)
水原 由貴 (調理員：勤続 15 年)
- ・三重県老人福祉施設協議会会長表彰
千草 篤磨 (園長：勤続通算 10 年)
池田真希子 (介護士：勤続 10 年)
- ・津労働基準協会会長表彰
萩野 寛美 (事務員：勤続 29 年)

花華クラブ

平成19年に発足した我が花華クラブ。当初は体力的にも精神的にも大変な介護の世界に身を置いている職員の心の中に素敵なお花のある空間をお届けできたらいいなあの思いで発足しましたが、今年度末で解散したいと思います。雛祭り、端午の節句、母の日、父の日、ハロウィン、そして一大イベントのクリスマスリースとテーブル花。文化部なのに運動部さながらの勢いで昼休憩という限られた時間の中で皆頑張って作りました。全て楽しかった思い出です。



日本レクリエーション協会プロモーションビデオ撮影

令和2年10月2日に、日本レクリエーション協会による広報・宣伝用ビデオの撮影が行われました。東京から3人の協会スタッフが来園し、報徳園の皆さんによるレクリエーション活動の場面が撮影されました。近々その動画が日本レクリエーション協会のホームページに掲載されます。



編集後記

今号は、お正月にお届けできるよう、頑張っておりました。丑年は十二支の2番目の年で「芽が出る年」と言われているそうです。希望の芽が出て、良い年になることを願い、思いを込めてお届けします。報徳園の日々の様子、明るい話題を楽しんで頂けたら幸いです。